

令和元年11月6日  
(2019年)

保護者の皆さまへ

吹田市立吹田第一小学校  
校長 野田 健 司

## 令和元年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和元年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### ●国語

##### 《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値を上回る結果となった。

##### 《各領域における成果と課題》

###### 話すこと・聞くこと

- この領域の問題では平均正答率が全て全国値を上回っており、全て80%近い正答率であった。記述式問題では、条件を落とさずに書くことができていた。

###### 書くこと

- この領域の問題では、平均正答率が全て全国値を上回っていた。記述式の問題で、提示されている文章が一見整理されている文章に見えるのだが、文字の配置や大きさ等から文字の羅列に見えてしまい、大切な情報をつかみにくかったのか、誤答が多く見られた。

###### 読むこと

- この領域での平均正答率は全て全国値を上回っており、どの問題も高い正答率であった。読むことの領域として、「身近な食べ物について疑問に思ったこと」を資料からノートにしたものが題材として取り上げられており、資料の見出しが、ノートの見出しと一致しているため、構成もつかみやすかったものと思われる。

##### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 3問あった漢字の問題では、同音異義語の「対象」「関心」は全国値を上回る平均正答率であったが、「限らず」を書く問題では全国値をやや下回った。
- ことわざの使用例を選択する問題は、特に高い平均正答率であった。

## ●算数

### 《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値を上回る結果となった。  
無解答率を見ると、ほとんどの問題で全国値を下回った。

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

- ・平均正答率は全ての問題で全国値を上回った。示された式の意味を問われた問題は特によくできていた。
- ・誤答の内容としては、計算のきまりで乗法を先に計算せず、左の式から計算してしまい、問題文の情報が多いために問題の趣旨を正しく理解できていなかったことが見られた。
- ・記述式問題で一番正答率が低かったのは、除法の計算の仕方についてまとめて文章にする問題であった。

#### 量と測定

- ・すべて記述式であったが、平均正答率は全ての問題で全国値を上回っていた。問題の中で参考となる文章やキーワードがあった為、比較的書きやすかったのではないかと考えられる。

#### 図形

- ・出題の2問中1問では、平均正答率が高いながらも全国値をわずかに下回っていた。
- ・長方形を直線で切った図形の中から台形を選ぶ問題では、対辺が平行であるなどの図形の性質の理解が十分にできていなかったと考えられる。

#### 数量関係

- ・全ての問題で平均正答率が全国値を上回っていた。特に、場面の状況から単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題では、全国値を大きく上回っていた。
- ・記述式の問題では、正答の条件2つのうち1つしか記述していない誤答が見られた。
- ・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題では、ほぼ正答することができた。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### ●生活に関するアンケート

#### 《生活について》

- ・「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合が、全国値と比べて上回っていた。
- ・「学校での出来事をお家で話している」と答えた児童の割合が、全国値と比べて下回っていた。

#### 《総合的な学習の時間・特別活動・道徳》

- ・「ICTをどの程度活用したか」については月1回以上が最も多く、「週1回以上」や「毎日の活用」は全国値を下回った。
- ・「授業での学びをほかの学習に生かしている」と答えた児童の割合は、全国値を上回っていた。一方、総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて行う「調べ学習」への取り組みについては「当てはまらない」と答えた児童の割合が全国値を上回った。
- ・道徳の授業において、「自分の考えを深め学級やグループでの話し合い活動に取り組んでいるか」では、「当てはまる」と答えた児童の割合は、全国値を上回っていた。

### 《自己肯定感について》

- ・「自分には良いところがない」と答えた児童の割合は、全国値を上回っていた。「将来の夢や目標を持っていない」と答えた児童の割合も全国値を上回っていた。
- ・「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」と答えた児童の割合が全国値を上回った。
- ・「学校のきまりを守っていますか」といった質問に、「当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国値を上回っていた。

### 《家庭学習について》

- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問にはっきりと「している」と答えた児童の割合が全国値をやや上回っていたが、「どちらかといえばしている」と答えた児童を合わせると下回る結果となった。さらに、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた児童の割合は全国値を上回っていた。
- ・塾や家庭教師などを含めた授業以外の学習時間は、「2時間以上」と答えた児童の割合が全国値を上回っているが、「1時間より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合も全国値を上回っていた。
- ・「読書は好きですか」の質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合が、全国値とほぼ変わらず高かったのに対し、「新聞を読んでいますか」の質問には「ほとんどまたは全く読まない」と答えた児童の割合が全国値を上回った。

### 《地域・社会への関心について》

- ・「地域行事に参加しているか」「地域・社会をよりよくするために何をすべきか考えるか」に対し「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童の割合が、どちらも全国値を上回った。
- ・「外国の人と友達になりたいか」「外国の人に地域のことを知ってほしいか」に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合が全国値を上回った。
- ・「人の役に立つ人間になりたいか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」とほとんどの児童が答えていたが、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童の割合が全国値を上回った。

### 《いじめについて》

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」とほとんどの児童が全国値同様に回答している。しかし、「困っている人を進んで助けている」と回答した児童が全国値を下回っていた。

### 《学習に関する質問》

#### 国語

- ・「国語の授業が好き」と答えた児童の割合は全国値を上回った。
- ・「国語の授業で文章や資料を読むとき目標に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか」では、「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた児童の割合は全国値を下回った。

#### 算数

- ・「算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役にたつ」と答えた児童の割合は、全国値を上回った。
- ・「解き方が分からないときには諦めずにいろいろな方法を考える」「問題の解き方が分かるようにノートに書く」と答えた児童の割合は、全国値を下回った。
- ・「新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたい」と答えた児童の割合は、全国値を上回っていた。

### 3. 今後の取り組み

#### 《学習について》

国語においては、引き続き漢字の学習を低学年から丁寧に積み上げ、成果を収めている同音意義語に加え、児童が苦手としがちな訓読みする漢字についても、今後練習を重ねていきます。文法事項を踏まえた文の書き直しなどは、各学年の「書くこと」の指導のなかで、意識して学習していく必要があります。各学年で様々な書く活動を積み重ねていくことで定着させていきたいと考えます。また、「読むこと」においては、物語文や説明文ともに様々な形式の文章を読むことに慣れて、短い時間でも長い文章の中から読解に必要な部分を取り出せるようにしていく必要があります。授業の中で、必要な個所に印をつけながら読むなど、文章読解のための具体的な方法を指導していきます。国語に限らず様々な教科の授業で多くの文章に触れさせることで、語彙を増やし、言葉の意味や役割を考えていけるようにします。これらは小学校6年間のどの学年でも意識して指導することが大切だと考えます。1年生から継続して、文を書くこと、文から読みとることを意識した指導をしていきます。

算数においては、少人数指導を継続して実施してきた成果が表れ、どの問題でも正答率は全国値を上回っていました。全国値は上回ったものの正答率が低かった問題では、記述式で正答の条件が3つある問題でした。解答として取り上げる条件が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述することが必要です。大事なことを落とさず順序立てて書く力を、国語や算数だけでなく、他教科でも意識して指導していきます。また算数の授業では、自分の式の求め方を説明したり、他の児童の考えを代わりに説明したりするなど、考えを全体場で説明し合う活動が大切です。そのために、算数の授業の中ですでに各学年で行っている、問題解決学習の流れを大切にしながら学習を進めていきます。

今後もステップアップ学習などで児童にあった課題で反復学習を進め、基礎・基本の定着を図っていきますので、宿題など家庭学習での声かけなどをよろしくお願いします。

#### 《生活について》

「自分には良いところがない」と答えた児童が全国値を上回っていたことについては、学校として自己肯定感を高めるような取組を進めていく必要があると考えます。先行きが不安な社会情勢ではありますが、「将来の夢や目標をもっている」児童が増えていくよう、自分に自信を持つことができる様々な体験を計画していきます。そのために、責任や達成感の伴う児童会活動、様々な人と触れ合う地域交流、仲間や自分の力を感じることのできる運動会や音楽会などの学校行事を充実させていきます。また、いじめについては、頭でいけないことと考えるだけでなく、いじめで困っている友だちに自分から声をかけるような、行動のともなう児童の育成に努めてまいります。そのために、各学年の道徳の授業で、いじめについてみんなで考える場をつくったり、日常の中でいじめにつながる出来事を見逃さず、学級で話し合い解決する場を持ったりしていきます。また、家庭学習の充実や体験活動の充実のためには、各ご家庭の協力が不可欠です。家庭との連絡を密にして、学校と家庭が同じ方向で支援していきけるよう努めてまいります。

以上、簡単ですが今後の学校の取り組みについてお伝えしました。

今後とも、学校と家庭と地域と協力して子どもたちをともに育てていきたいと思っています。そのために、課題を共有し、方針を同じくして子どもの指導に当たることがとても大切だと考えます。どうぞ、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。